

## 夢への思い胸に 海外遠征へ



全国の高校・クラブチームのうち、上位20チームが年間を通じて戦うサッカーのリーグ戦『高円宮杯U-18サッカーリーグ プレミアリーグ』。このリーグ戦で活躍した選手のみが参加できる海外遠征チームに、梶原地区在住で神戸弘陵学園高校に通う上月翔聖さんが選出されました。上月さんら遠征チームの18人は、イタリア・ミラノで、名門チーム・インテルのユース選手とのトレーニングマッチに臨みます。

将来、プロ選手になることを目指している上月さんは「日本とは違う、海外の厳しい環境を経験するのは、プロを目指すうえで必ず役に立つことだと思います。この機会をしっかりと生かします」と話していました。

## 第27回兵庫県スポーツ少年団 総合競技大会（柔道競技）



団体戦 第3位 社柔道少年団  
尾芝瑛斗 村川瑛信 田中海成 柴垣璃来  
中谷雅夢 尾芝壮右太 上野柚二陽  
男子3年生の部 準優勝 村川瑛信  
男子5年生の部 第3位 中谷雅夢 柴垣璃来  
女子1年生の部 優勝 田中ひかり  
女子5年生の部 準優勝 村川紗衣子 第3位 田中あい

## 国際親善空手道選手権大会2017



○小学1年生の部  
優勝 小寺 理  
(滝野東小1年)  
○小学5年生上級の部  
軽量級  
準優勝 小寺 涉  
(滝野東小5年)  
○中学生女子上級の部  
軽量級  
優勝 小寺もとこ  
(滝野中1年)  
○高校生女子上級の部  
無差別級  
優勝 小寺里美  
(小野工業高1年)

## 第5回全日本ジュニア チャンピオンシップ



○中学1年生女子 軽量の部  
優勝 小寺もとこ  
(滝野中1年)

## 極真サムライ杯秋の陣 空手道選手権大会



○小学3年生男子の部  
第3位 藤本琉輝  
(滝野東小3年)

## 野草を食材に活用 『摘み菜』文化を発信



1月5日、河高地区出身で神奈川県在住のフリー編集者・藤井文子さんが、身近な野草を採取して食べる『摘み菜』を体験するセミナーを開催されました。

藤井さんは、出版社『山と溪谷社』で編集者として雑誌などを多数出版。平成12年、摘み菜に詳しい平谷けいこさんの著書を編集したのをきっかけに、平谷さんが代表を務める『摘み菜を伝える会』に加入し、野草の調理法などを広める活動にかかわってこられました。

今回開催されたセミナーの会場は、摘み菜を広めるための活動拠点として使えるように改装した藤井さんの実家。今後は、2か月に1回程度、加東市で野草の料理講座や野草を使った染め物講座などを開催されるとのことです。藤井さんは「地元の方々とも楽しく交流しながら、摘み菜の魅力を広めていけたら」と話しておられました。

## 100歳おめでとございます



伊藤あや子さん  
(吉井)

## 社高校生の地域活性化案 近畿代表に選出

昨年10月から12月にかけて、内閣府により実施された地方創生☆政策アイデアコンテスト2017で、社高校生活科学科のみなさんの地域活性化案が、近畿代表に選ばれました。

案を考えたのは、同科2年の7人で、その内容は、加東市の特産品を活用した美容用品を開発し、雇用の創出を狙うというもの。山田錦の米ぬかを使った美容パック、はちみつを使ったハンドクリームや化粧品など、食のスペシャリストを養成する同科で学ぶ生徒ならではの提案で、独創性などが評価されました。

今回、近畿代表に選ばれた地域活性化案は、まちづくりに若者の発想を生かそうと、加東市が同校生を対象に開催していた地域の課題解決策を立案する授業の成果物です。

今回の案は、残念ながら、全国の最終審査（全327件の応募のうち5案）には残れませんでした。生活科学科のみなさんは、来年度開催予定のコンテストでの受賞に向けて、既に、次の活性化案の立案に取り組まれています。活性化案を立案したメンバーの河合紀咲さんは、授業を受けて「次回は、特産品を活用する方法をさらに研究して、全国で受賞したいです」と意気込んでいました。



## まちかどトピックス

身近な話題など、お気軽にご連絡ください。  
広報係がカメラを持って伺います。

☎43-0387

## 歳末に善意集める



平成29年12月24日、やしろショッピングパークBioで、ボーイスカウト社第1団の団員や指導者ら24人が、歳末助け合い募金への協力を呼びかけました。同団では、歳末の募金活動を毎年恒例の活動としており、今回は、前回の成果を約1万7,000円上回る5万4,682円を集めました。活動に参加した団員で兵教大附属小5年の川井紅葉さんは「子ども連れの方や、おじいさんおばあさんが次々と協力してくれてうれしかった。募金は、困っている人がおいしいものを食べるために使ってほしいです」と話していました。

なお、集まった善意は同市社会福祉協議会と神戸新聞厚生事業団に分けて寄託されました。

## 宝物と8年ぶりに再会



今年成人を迎えた滝野南小の卒業生13人が、1月8日、同小の校庭に集まり、卒業時に埋めたタイムカプセルを掘り起こしました。タイムカプセルには、20歳の自分へ向けて書いた手紙のほか、親からもらった手紙・一番点数の悪かったテスト・愛用の筆箱など、卒業生らのそれぞれに思い出深い宝物が封入されていました。『プロ野球選手になる』。そう書かれた自身からの手紙を受け取ったのは、在校時に児童会長を務めた藤井健平さん。現在、大学に通いながら、プロ野球選手を目指している藤井さんは「昔の純粋な気持ちを忘れないで、これからも夢に向かってがんばります」と笑顔でした。

## ご当地カレーがBioに集結!



平成29年12月23日、やしろショッピングパークBioで、北播磨地域5市1町のご当地カレーを試食・購入できるイベント『北はりまカレーフェス』を開催しました。同イベントは、加東市の『桃ピューレキーマカレー』完成により、北播磨5市1町の全てにご当地カレーができたことから、まとめてPRし、全体を盛り上げるために企画したものです。

当日は、県内外から400人超の来場者があり、試食用ライスの提供が間に合わないほどの盛況でした。お子さんと一緒に立ち寄った横浜市在住の皿池友子さんは「ご当地カレーの存在は、サービスエリアなどで見かけて知っていましたが、北播磨地域にあることは知りませんでした。加東のキーマカレーがピリッとしていて、おいしかったです」と話していました。